公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ポニーナ幕張本郷		
○保護者評価実施期間	令和7年6月23日		令和7年7月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	令和7年6月9日		令和7年6月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年9月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの事業所に対する満足度が高く、利用者(児童)達も楽しく快適に事業所内を過ごしたり、支援を受けたりすることが出来ている点	余暇の時間帯を多く取ることで利用者(児童)が伸び伸びと過ごせるような環境を日々提供している。職員側も余暇時間中に対人のトラブルや言葉の伝え方、基本的な生活習慣等について必要に応じて都度、助言や支援を行うことで利用者(児童)達の成長に繋げていけるように取り組んでいる。	定期的に利用者(児童)が興味・関心を引くような遊具(知育玩具等)の提供を行うことで満足度をさらに高めていきたい。 また職員側もスキルアップの為、各自治体等が主催する発達障害に関する知識の取得や事例検討会等の研修に積極的に参加していく。
2	集団療育のプログラムを内容が固定化されないように計画的に取り組んでいる点	都度職員間で話し合いを設けることでバランスの良いプログラム内容を立案している。また、過去に実施したプログラムを記録して保存することで、各プログラムの実施サイクルを把握するようにしている。	季節感を出したプログラムの実施等、オリジナル性の高いプログラムを立案することで、さらなる充実化を図っていく。
3	法令を遵守した上で保護者への説明義務等を果たすことで、信頼関係の構築に努められている点	保護者との信頼関係を構築・維持する為に送迎時等で保護者へ説明するべき事項が生じた場合は確実に行う。もし失念した場合は、電話やメッセージをその日のうちに行う等の取り組みを怠らないようにしている。	普段お会いすることができない保護者の方もいるので、定期的に電話やメッセージ等でコンタクトをとっていくことで、さらなる信頼関係の構築に繋げていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の訓練室等の部屋のスペースが狭い為、集団療育等を実施する際に窮屈に感じることがある点	部屋の敷地面積に対して、1日あたりの利用者(児童)と職員の人数のバランスがやや保ててない部分があると考えられる。	設置されているテーブル・机等に対して、使用していない物については一時的に畳んで別の場所に保管することでスペースの確保に繋げていく。
2	緊急時の対応に関して、避難訓練等の実施状況について、各家庭に対し、明確化がされていない点	各家庭への避難訓練等の実施のアナウンス、または報告について、実際に参加した、あるいは参加する予定の利用者(児童)の家庭での連絡で留まっていた為、全家庭への緊急時の対応について、訓練の実施状況の周知が満足にできていないことが考えられる。	全家庭へ事前に避難訓練等を実施する旨を、メッセージ等でアナウンスをする。また、実施後の状況や様子について文書もしくはブログ等を通して、全家庭に報告するように努めていく。
3	地域住民や児童会、関連事業所との関わりが消極的である点	児童会等の連携が薄いことで、先方が主催するイベントについての情報が届くことが少ないことで、関われる機会が少ないことが要因と考えている。	送迎時等で対象児童の様子を定期的に伺う等、コミュニケーションを取る機会を作りながら関係性を構築していくことで、双方で交流しながら活動する機会を作れたらと考えている。